

札幌市自立支援協議会

子ども部会ニュース

第7号(2019年3月)
発行 札幌市自立支援協議会子ども部会 事務局
連絡先
〒007-0836 札幌市東区北36条東9丁目1-1
[TEL:011-776-6856](tel:011-776-6856) FAX:011-776-6857
E-mail:muginoko@muginoko.com

今年度の子ども部会のまとめ(北川部会長)

All Sapporo(オールサッポロ)で障害のある子どもと家族が少しでも幸せに暮らせるように、子ども部会は札幌市の障害児に関わる立場の代表の方が集まって課題をアセスメントし、その解決のため議論してきました。障害のある子の存在は、札幌市の中で、数は少ないですが、とても大切な札幌の子どもです。これからも、障害のある子どもとない子どもが共に、笑顔で生活できるよう関係者みんなで手を繋いでいく子ども部会でありたいと思います。

「社会的養護の必要な子どもを受け入れている里親・入所施設等関係職員の意見交換会」

(事務局:もなみ学園 笠谷)

平成30年度の社会的養護に係わる研修会として、平成31年1月30日に『社会的養護の必要な子どもを受け入れている里親・施設職員等の情報交換会』を3団体の事例発表会をメインにして開催しました。発表概要は以下のとおりです。

- ・「札幌市における社会的養護の現状と対策」(児童相談所)
- ・「社会的養護を必要としている子どもへの支援について」(児童養護施設)
- ・「ファミリー・ホームでの支援の1事例」(ファミリー・ホーム)

各団体の事例発表をもとに質問を受け意見交換を行いました。

当日は社会的養護に係る施設および関係機関から職員30名が参加しました。

参加者からは、「来年は是非私の事業所から発表」という声も出ていました。



「教育と福祉・医療の連携に係る課題検討会からの報告」

(運営委員 伏見特別支援学校もなみ分校:青木)

「教育と福祉・医療の連携プロジェクト」が終了し、今年度からは各区に立ち上がった子ども部会の活動を市子ども部会がバックアップする形で活動を行ってきました。連携のための企画として昨年度も行った「放課後等デイサービスの参観日」を7/26~8/10と11/27~12/7の2回に分けて開催しました。今回はのべ19の事業所のご協力のもと、46名の参加を得ました。学校関係の他にも市役所等の福祉行政の方にもご参加いただいております。今年度5月に文部科学省より「教育と福祉・医療の連携促進に関する通知」が出され、連携に関する環境も変化の兆しを見せております。今後も各区の取り組みとつながり、支える形で一層の連携促進のため活動していく予定です。

「子ども部会全体研修会」(事務局：楡の会 金子)

第7回子ども部会全体研修会を10月24日(水)WEST19講堂で行いました。9月におきました胆振東部地震の事も含め「心に傷をもった子どもへの支援～震災・虐待を受けた子どもたちを地域で支えるために～」をテーマに、基調講演・シンポジウムを行いました。子ども発達支援総合センター所長上田敏彦氏に「心に傷をもった子どもへの支援」被災した子どもの身体・情緒・行動的な症状やトラウマからの症状のお話しと、虐待により心に傷を受けた子どもへの関わり方としてアタッチメントとレジリエンスのお話を頂きました。

シンポジウムでは、母子保健係長筒井有美氏より「支援が必要な家族を地域で支えるために」、母子保健活動の意義や取組など話され、支援が必要な家族を地域で支えるために関係機関のさらなる連携の必要について、児童相談所相談二係長森岡祥広氏より「被虐待児の地域支援について」、児童虐待の法律上の定義や取組を効果的に活かすためには支援機関との顔の見える繋がり的重要性について、ノビロ学園長遠藤光博氏より「心の傷をもった子供への支援」として、入所児の事例を通して診断の有無に関わらず何らかの生きづらさや困難さを抱えていることに目を向け、それゆえ心が折れやすくなっている子どもへのケアの大切さが必要であること。

その為にはアタッチメントベースで発達の視点を持ちながら、多職種連携の重要性を改めて確認する事ができました。例年に比べ学校や行政の参加が多く、幅広い分野から約270名の参加を得ました。今回の地震後の不安も含め医療的な視点からの見識を得て、事例の報告から実態と問題の本質を得る機会となったと好評でした。



「子ども発達支援者支援力向上セミナー初級・中級」(事務局：麦の子会 木村)

今年度は、11月(3日間)に初級コースを開催し「発達支援を必要とする子どもの課題や自立(社会参加)に必要な支援方法について学び、実践内容の向上や支援力のスキルアップ、連携の充実を目指す」をテーマに講義やワークショップを行いました。2月(2日間)の中級コースでは、「事例検討を通し、連携の充実を目的に、地域で信頼される事業所を目指す」をテーマにソーシャルワークの基礎を学び、グループでの事例検討が行なわれ、子ども、家族に必要な支援について活発な意見交換が行われました。さまざまな問題を抱えている家族がある中、一つの家族を幾つかの機関で手を取り合い連携して支援していくことの重要性を学ぶことが出来ました。

次年度も、同様のセミナーを開催したいと考えています。



「医療的ケア児の検討会」(運営委員：楡の会 加藤)

6月12日、札幌市医療的ケア児支援検討会が初めて実施されました。昨年の国の福祉施策における法律で医療的ケア児に関する検討会の設置が各自治体に義務づけられたことを受けて実施されました。第1回目は委員の承認と自己紹介、また現在の各所属先と医療的ケア児との関わりや考えについて話されました。夜間の開催ということで父母会代表のお母さんはお子さんの預け先の事も心配しながらの参加だったことが話され、医ケア児家族のご苦労が現実的に理解できた場面でもありました。この検討会の成果として期待される事は、医療的なケアを必要としている子どもたちがその子らしい未来を描けるよう、具体的な施策に展開される事だと思っておりますが、それを形あるものにするためには関係者が連携し合えるネットワーク作りも合わせて必要な事と思っております。